

「グループ診療としての在宅医療の運営」

座長 | **真野 俊樹** [多摩大学 大学院教授 / 医療・介護ソリューション研究所所長]

略歴

1987年名古屋大学医学部卒業。医師、医学博士、経済学博士、MBA。

臨床医を経て、95年9月コーネル大学医学部研究員。外資系製薬企業、国内製薬企業のマネジメントに携わる。同時に英国レスター大学大学院でMBA取得。その後、国立医療・病院管理研究所協力研究員、昭和大学医学部公衆衛生学(病院管理学担当)専任講師を経て現職。東京医療保健

大学大学院客員教授、財団法人医療機器センター客員研究員、JA共済総研客員研究員、JCI アジアパシフィックエリアアドバイザーボード、一般社団法人メディカルクオリティアカデミー理事長などを兼任。

2004年、京都大学にて博士(経済学)取得。

現在の公職：厚生労働省独立行政法人評価委員会(審議会)部会長、日本小児科医会 国際委員、東京都立病院経営委員会(経営部会)委員、厚生労働省外国人患者受け入れ基盤整備事業推進委員長など

演者

中野 一司 医療法人ナカノ会 理事長 / ナカノ在宅医療クリニック 院長
船木 良真 医療法人三つ葉 理事長 / 三つ葉在宅クリニック
大石 佳能子 株式会社 メディヴァ 代表取締役
武藤 真祐 医療法人社団鉄祐会 理事長 / 祐ホームクリニック 院長
英 裕雄 医療法人社団三育会 理事長 / 新宿ヒロクリニック 院長

概要

在宅診療をグループ診療で行う医療機関が増えてきている。

グループ診療には、他医療機関同志の連携外部型グループ診療と、同一医療機関内における同一法人内部型グループ診療がある。しかしどのグループ診療形態も、単に複数医師や医療従事者が複数集まればいいというわけではなく、実際には様々な工夫、例えば24時間365日対応をどう支えるか？医師と看護師の役割分担をどうするか？内部や外部との情報伝達をどうするか？などが必要である。現

在グループ診療で在宅医療を行っている在宅医療機関はもとより、今後グループ診療で在宅医療を行おうとする医療機関にとって、様々なノウハウや苦労を知ることは、それぞれの在宅医療の発展に不可欠と考える。本シンポジウムでは、内部型グループ診療を運営しつつ、連携外部型グループ診療を行っている双方に実績のある医療機関や企業の代表者に集ってもらい、それぞれのグループ診療の運営上の工夫やその利点、欠点などを語ってもらうことで、地域医療におけるグループ診療のあるべき姿を探りたい。ぜひ多くの在宅医療者の参加を期待している。